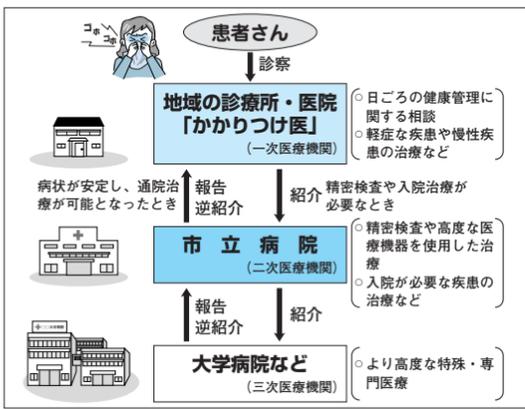




2004 ~ 2009 5年間のあゆみ

—市立病院は新築移転から5年を迎えます—

当院は、平成16年7月に病床数366床、18診療科を有する二次医療機関として開院しました。開院当初は全国的な医師不足の影響を受け、産科が休止するなど厳しい状況に直面しましたが、医療スタッフの確保に努めた結果、平成19年10月に産科を再開。さらに救急診療科の新設、草加八潮医師会所属医師による小児時間外救急診療を開始するなど、市民の皆さんに信頼される病院を目指して発展を続けています。



病気で地域のかかりつけ医にかかった場合に、病状によっては入院や手術などによる専門的な治療ができる病院を紹介される場合があります。また、逆に病院での専門的な治療が終了し、症状が安定した場合には地域のかかりつけ医を紹介されることもあります。このようにかかりつけ医と病院が役割分担し、協力することで患者さんへ適切な医療を提供することができま。

地域医療連携室では、かかりつけ医から事前に患者さんを紹介いただいた場合に、スムーズに市立病院で患者さんを受け入れられるよう、院内の各診療科に診療予約などの連絡調整を行っています。また、当院の診療体制を地域医療機関にご理解いただくための情報提供も行っており、地域医療機関との橋渡し役を担う部署とも言えます。

市立病院では市民の皆さんに医療機関ごとの役割に応じた受診をおすすめしています。医療機関を上手にご利用いただくために、「かかりつけ医」等の地域医療機関の情報提供も行っていますので、その際は地域医療連携室をお気軽にご利用ください。

2004. 7
(平成16年7月)

地域医療連携室 設置



6月に行われたあじさいコンサート

新病院が開院して以来、ボランティアの皆さんに患者さんの案内や介助、院内の飾り付け、読み聞かせ、コンサートなどの活動をしていただいています。そして、ボランティアの皆さんの温かい気持ちや奉仕活動は患者さんから大変好評をいただいています。

特に、多くのボランティアの皆さんが参加する季節ごとのコンサートは、いまや恒例イベントとして地域に定着しています。回を重ねるごとに来場者は増加。ピアノなどによる生演奏に合わせて歌を一緒に歌う姿も見られ、患者さんからは、「すばらしい演奏で心を癒されただけでなく、皆さんの元気をいただきました」という声も。

現在、ボランティア「クローバー」のまとめ役となっている西尾正道さんは、「これからも患者さんやご家族に安心感や元気を与えられるよう、笑顔で優しく接していきたいです」と話しています。

2004. 7
(平成16年7月)

院内ボランティア 発足



消化器科でのカンファレンス

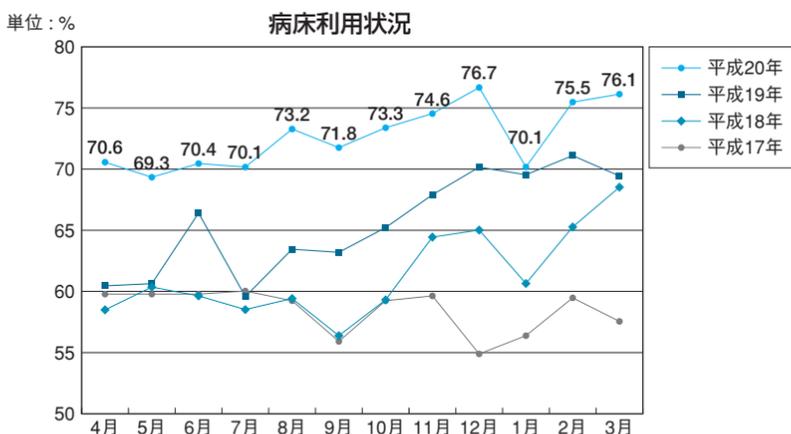
専門的な知識だけでなく、一般的な外傷や疾病に対する基本的な診療能力を持つ医師を育てるために、平成16年度から新医師臨床研修制度が始まりました。当院も国から臨床研修病院の指定を受け、これまで東京医科歯科大学をはじめ全国から優秀な研修医を受け入れてきました。

基本的な研修内容は、厚生労働省のガイドラインによって定められており、現在の必修科目として内科、外科、救急(麻酔)、小児科、産婦人科などが挙げられます。その中で経験すべき症状や病態も細かく決められ、各臨床研修病院が独自に研修プログラムを組んでいます。当院では指導医だけでなく病院全体で、患者さん思いで臨床能力の高い医師の育成に取り組んでいます。

診療部長の矢内常人医師は「病院として研修医を受け入れるということには、若い労働力を得るといふ以上の意味があります。研修医を教育し指導することが、指導医のレベルアップにつながり、さらに病院全体の医療の質の向上につながるからです」と話しています。

2004
(平成16年)

臨床研修医の 受け入れ開始



病院統計

※平成17～19年度は決算数値、20年度は決算見込み数値。
医師・看護師・助産師数は4月1日現在の常勤職員数(医師数は研修医を除く)。